

海路からの包括的災害医療の 検証事業化の推進について

【目的】

大規模災害を想定した海上アプローチの有為性を検証するために、医療機能を備えた自衛艦、及び海上保安庁巡視船、または民間高速船等の艦船を活用した検証の実施を指す。

【推進効果】

海路からの包括的災害医療の対応には、艦船を活用した組織的介入の検証が不可欠であり、この検証事業実施で官民協働プラットフォームの構築（制度設計）が可能になる。



2013年3月27日 衆議院第一議員会館第二会議室 勉強会
公益社団法人モバイル・ホスピタル・インターナショナル

Koichi Sunada, Ph.D.

【検証内容】

1. 艦船による災害医療の組織的介入および撤退

- ◆現在の災害医療整備の目標は、すべての被災者を72時間以内に救助して医療を提供し、避けられる災害死 (preventable trauma death) を回避することにある。
- ◆そのためには、この時間 (golden time) 内に、ハード (医療設備) とソフト (医療実施者および医療資機材・薬剤) を一緒に被災地に投入することが必要である。
- ◆ただし、投入される医療者は訓練され統率された者でなくてはならず、また医療資機材・薬剤は整理され分類されたものでなくてはならない。
- ◆この要件を満足する被災地への医療の投入の仕方を組織的介入と呼び、これを可能ならしめる優れた方法に高速艦船並びにヘリ搭載型艦船の有機的運用がある。そのためには民間の医師及び医療関係者と共同するプラットフォームが必要不可欠である。



組織的介入および撤退アプローチ・イメージ

従来の行動パターンを変化させる ～パラダイムシフト

組織的移動による全人的ケア ⇔ 海路からの包括的災害医療・ソフトパワーの推進

医師

看護師

薬剤師

技師

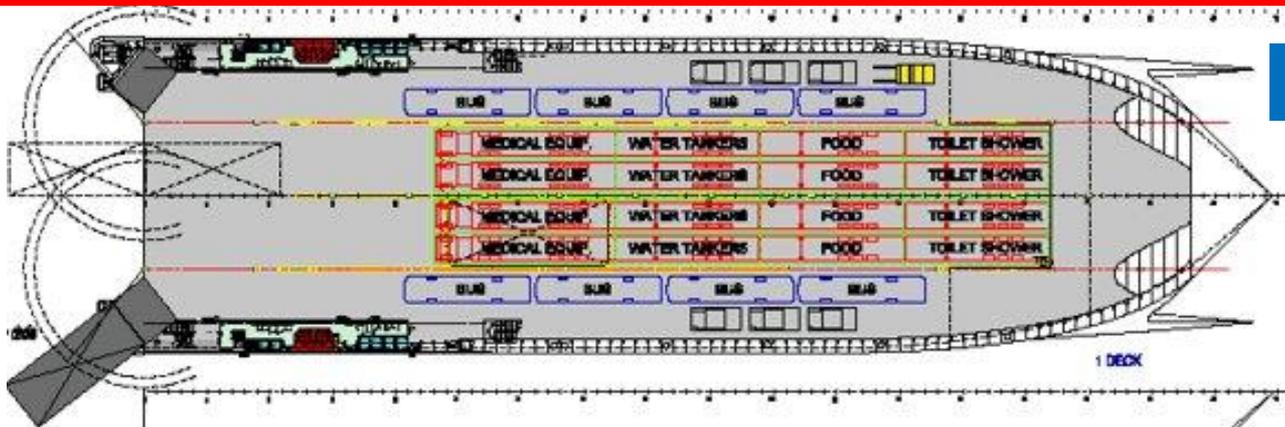
被災現地医療の指令・コーチング

大隊規模乗船



ロジスティック・マネージメント(薬剤・検査機器・水食糧他備蓄品)・統合指揮センター等

戦略的・包括的組織運用



- 設備の整った手術室を備えた6セミトレーラー
- 4つの水タンク
- 4つ食品のトレーラー
- 4台セミトレーラー型病院のベッド施設
- 携帯酸素
- 風下を提供して海で救難者を受け取るために双胴船の間にポータルを設ける

- 4つのトイレ/シャワートレーラー
- シックス・ハンビー
- 8台～12台の旅客バス
- 放射線室
- 医療研究室、薬局、検眼ラボ、およびCATスキャン

2. クライシス・マネージメントの抜本的強化

◆電気・通信等のライフラインの途絶えた急性期の被災地に、各災害対応機関の指揮本部を統合した「統合指揮所」を開設することは容易ではない。

◆これを、損傷を受けた被災建造物や安定性に欠けるテントではない一定規模を有する艦船に開設できれば、医療のみならず災害対応全体に利するところ大である。

◆艦船は、ボランティアに集結してきた医療者に対する指揮機能を有すると同時に、医療を提供する側の安全と生活を保障して安定的な活動拠点を提供する。

◆すなわち艦船は、単に病床を提供するものではなく、災害対応力を著しく喪失した被災地に強力なクライシス・マネージメントの中核を提供するものとして機能するものでなくてはならない。